

## 大学院特定課題研究 研究成果報告書

**研究課題**：神社所蔵漢文文献の発掘・解読・評価

**研究代表者**：西岡 和彦（神道学・宗教学専攻教授）

**共同研究者**：根岸茂夫（史学専攻客員教授）、吉岡 孝（史学専攻教授）、浅野春二（文学専攻教授）、石本道明（文学専攻教授）、青木洋司（文学部准教授）佐川繭子（文学部准教授）、鈴木崇義（文学部准教授）

**P.D.**：大貫大樹（神道文化学部兼任講師）、木村剛大（文学部兼任講師）

**研究補助員**：名越健人（文学専攻博士後期課程）、井上 黎（文学専攻博士前期課程）

**編集協力**：篠原泰彦（朔工房代表・文学部兼任講師）

### 研究成果

特定課題研究「神社所蔵漢文文献の発掘・解読・評価」は、令和3年度からスタートし、今年度は3年目の最終年度である。上記のように、本研究は学際的に共同研究者を擁して多角的に研究することと、若手研究者の育成とを目的のひとつとする。なお、今年度から佐川繭子准教授と鈴木崇義准教授があらたに加わった。

全国の神社には、貴重な漢文文献が所蔵されているが、研究対象として注目されてこなかった。そこでそうした貴重な知的財産を網羅的に調査・発掘し、それらを解読・評価し、広く斯界に提供することは、神道学・宗教学の分野はもとより、文学・史学等多方面においても有益であろうと思われる。

初年度は、佐藤平次郎編『明治碑文集』第1・2集（明治24年）、『同』第3・4集（同27年）や、林淳編『近世・近代の著名書家による石碑集成』（勝山城博物館、平成29年）所収の碑文建碑の存在状況を調査し、そこから神社所蔵漢文碑文を選考して、解読・評価することから始めた。文献の調査・整理等は研究補助者が中心に行い、共同研究者はそれらから研究対象資料を選考して、解読・評価を担当した。ただし、実地調査の活動は複数回の計画をたてたが、新型コロナウイルス感染症蔓延のためやむなく中止した。

二年目は、以上の作業を継続することと、コロナ禍のなか、各神社のご協力を得て、実地調査を行うことができた。

三年目の最終年度は、三年間の研究成果をまとめ、次に繋げることを課題に実施した。なかでも、昨年度調査発掘した資料の翻字・解読、ならびにその評価を、あらためて確認・検討し、報告書作成に取り組んだ。

報告書『國學院大學大学院 令和五年度 特定課題研究 神社所蔵漢文文献の発掘・解読・評価』（令和6年2月28日発行、頁数244）の目次は、以下の通りである（Ⅰの神社名ならびに碑文名は略した）。

研究目的と活動概要の報告・・・西岡和彦

Ⅰ 神社所蔵漢文文献（建立碑文）訳注稿・・・大貫大樹、根岸茂夫、吉岡孝、木村剛大、井上黎、石本道明、名越健人、浅野春二、西岡和彦、青木洋司（掲載順）

Ⅱ 碑文画像のデジタル処理について・・・篠原泰彦

Ⅲ 調査対象一覧・・・木村剛大、名越健人

Ⅳ 令和三年度～令和五年度活動記録

附 令和五年度研究代表・共同研究者・協力者一覧

○令和5年度の研究会は、計7回（対面・石本研究室とZoomのハイブリッド方式）実施した。

第1回（5月25日）「高山仲繩祠堂碑」（山川招魂社）の確認、墨田区調査済み碑文の分担についての検討ほか

第2回（6月22日）「池原香稗翁小傳」（諏訪神社）、「従五位多久茂族碑」（多久神社）の確認ほか

第3回（7月13日）「岩瀬鷗所」（白髭神社）、「墨田三絶」（白髭神社）の確認ほか

第4回（9月28日）「坂田源次郎翁訟徳碑」（墨田川神社）、「無琴道人墓銘」（隅田川神社）の確認ほか

第5回（10月26日）「空谷等周先生幘衣之藏」（白髭神社）表・裏面の確認ほか

第6回（11月30日）報告書目次案について検討、入稿までのスケジュール確認、報告書のイメージについてほか

第7回（12月21日）「伊勢山皇大神宮」の原稿体裁の確認、報告書入稿までのスケジュール確認ほか

なお、研究会に先立ち、漢文班（浅野、石本、青木、佐川、鈴木、木村、名越、井上）では、毎回研究会の前の週に下読みの会を行った。